

2026年8月21日

オホーツク地区ユース審判員 高久誠弘

JFAU18審判員研修会 参加報告

1, はじめに

この度、福島県で行われた JFA U18審判員研修会に派遣していただきましたので、報告させていただきます。

2, 研修会概要

参加大会：第5回 rookie cup 2026

研修日時：2026年7/30（木）～ 8/2（日）

会 場：jヴィレッジ（福島県）

参 加 者：各地域派遣審判員 計 26名



3, 担当試合

大会1日目（7/30） 富山第一 vs 米子北（副審）

大会2日目（7/31） 米子北 vs 西武台（主審）

立正大湊南 vs 星稜（副審）

大会3日目（8/1） 尚志 vs 岡山学芸館（主審）

佐賀東 vs 藤枝東（副審）

大会4日目（8/2） 前橋育英 vs 大津 （主審）

4, インストラクターからのアドバイス

- ・センターレーンになるべく止まらないこと。
- ・次の争点をしっかりと予期予測できているが止まって判定するのではなくサイドステップなどを使いながら判定したい。
- ・ファウルが起こった際にファウルした選手を捕まえたい。（懲戒罰の間違いを防ぐため）
- ・同じスピードで走るのではなく、スプリントなどで緩急をつけること。

5、観戦研修（インターハイ決勝戦）

グループに分かれてインターハイ決勝戦（静岡学園vs近代附属）を審判団に注目しながら観戦した。主審だけが試合をリードするのではなく、副審や4thともアイコンタクトなどでコミュニケーションをとりながら審判チームで試合をリードしていたのが印象的だった。また、主審のベンチへの対応（抗議）も毅然としていた。主審のポジショニングの動き出しがとても速く、参考にしていきたい。

6、おわりに

今回の研修会では、インストラクターの方々から「ポジショニングの工夫」や「走りの緩急」など、実践ですぐに活かせる具体的なアドバイスをたくさんいただくことができました。また、インターハイ決勝の観戦を通して、審判チーム全体で試合を作り上げる姿勢や、毅然とした対応の大切さを肌で感じ、とても大きな刺激を受けました。ここで得た気づきや学びを自分の中だけで終わらせず、北海道のユース審判仲間にしっかりと共有し、みんなでレベルアップしていけるよう還元していきたいと思います。

